

# 「IT」×「在宅」でひきこもりながら働ける社会へ

～日本初 当事者・経験者主体の  
株式会社「めっちゃコマ」～

ひきこもり状態の人は全国に100万人を超えるといわれています。その人数の多さだけでなく、当事者や支援する親の高齢化が社会問題化し8050問題(※1)などと呼ばれています。そんな中、彼らのこだわりとも呼ぶべき細やかさは長所なのはと、ひきこもり当事者・経験者が中心となって立ち上げたIT会社があります。その名も「株式会社ウチらめっちゃ細かいんで」。代表の佐藤啓さんに、設立の経緯や多様な働き方への思いを伺いました。



## Profile

株式会社ウチらめっちゃ細かいんで  
代表取締役社長

さとう けい  
**佐藤 啓さん**

1973年北海道生まれ。セイコーエプソン株式会社のエンジニア・経営企画などを経て、2006年に社会人向けIT教育事業を行うフロンティアリンク株式会社を創業、代表取締役に就任。2017年にひきこもり当事者・経験者を主体とした「株式会社ウチらめっちゃ細かいんで」を設立した。現在、ひきこもり当事者・経験者、支援者らによるサポーター会員が2,500人おり、1万人の登録を目指している。



ひきこもりの方は、働くことに躊躇うように感じているのでしょうか。

会社設立にあたり2000人以上のひきこもり当事者の方に話をお聞きしましたが、「自分でできる仕事があるならしたい」と思っている人がほとんどでした。ただ彼らは、昼夜逆転の生活をしていたり、コミュニケーションに自信がなかったりと、働くことへの不安を持っています。

我が社のある男性は、仕事経験はあるものの長続きしたことがなく、最初は月5万円のアルバイトから始まりました。在宅なので人目が気にならず、コミュニケーションも必要最低限、自分の得意なことに集中できるという環境で、彼は本来の頭の良さや力を発揮してくれました。仕事量は徐々に増え、月10万円のアルバイト、契約社員へとステップアップし、今は正社員として働いてくれています。

ひきこもりながら、本人のペースに合わせて働ける安心・安全な環境を作ったことで、自信を取り戻し、自然に仕事量が増えていきました。時間はかかりますが、周りが待ってあげられるかどうかだと思います。

「オンライン当事者会」「ひきこもりハッカソン」(※2)など、楽しいイベントも行っていきますね。

いくらひきこもりの人が安心・安全に働ける環境を作ったとしても、それを広く知ってもらわなければ存在しないのと同じです。多くの人に「めっちゃコマ」の活動を知ってもらうため、気軽に参加してもらえるイベントを開催しています。

昨年、エンジニアとひきこもりの方が合宿をして共同でアプリ開発を行う「ひきこもりハッカソン」を行いました。それぞれの違いを越えてお互いを分かりあえる

ひきこもり当事者を中心とした「株式会社ウチらめっちゃ細かいんで」(以下「めっちゃコマ」)を立ち上げたきっかけを教えてください。

私は2006年に、IT系の教育研修を社会人向けに行う「フロンティアリンク株式会社」を創業しました。そこでは教材やコンテンツの制作だけでなく、システム開発も自分たちで行っており、多くのエンジニアが必要となりました。ところがIT業界は、かなりの人手不足。人材が採用できないのであれば育てるしかなく、どうせなら素養がある人を育てたいと思っていたところ、ふと私の双子の従兄弟のことを思い出したのです。

彼らは約20年間ひきこもり状態で、もう40代、親も70代後半です。親が元気なうちはいいのですが、いつまでもそうとは限りません。先々のことを考えた時に自分が何か手伝えることはないかと、ずっと気になっていました。彼らを小さい頃から知っています。決して変なところがあるわけではなく、頭が良くパソコンも得意でした。そして、私の会社は創業時から完全在宅勤務でしたので、IT系であれば勉強も仕事も在宅でできることは体験上分かっていました。ひきこもり当事者の中に優秀な人材が眠っている可能性に気づき、「IT」と「ひきこもり」の組み合わせを思いついたので。

「めっちゃコマ」は、どのような業務を行っていますか。

プログラミングなどを教える講座の講師やホームページなどの制作のほか、発達障害・精神障害の方のための就労移行支援事業所におけるIT・プログラミング講座のサポート業務を行っています。現在は18人体制で、そのうち、ひきこもり当事者・経験者が16人。業務委託をお願いしている方も他に12人います。

とても良いイベントになりました。「オンライン当事者会」では、会議通話アプリ「Zoom」を使ってひきこもり当事者の方にも無理なく参加してもらっています。

新型コロナウイルス感染症対策で在宅ワークが注目されています。働き方を見直す社会の動きを、どのように見えていますか。

在宅ワークは、人によって向いている方もいれば、会社でコミュニケーションを取るほうがいい方もいらっしゃいますし、業種によってはできない場合もあります。全員が在宅ワーク、全員が出社と一律にするのではなく、一人一人が働きたい働き方をして、それで会社が変わっていくようにするのが働き方改革の理想だと考えます。「めっちゃコマ」はたまたま全員が在宅で働きたい方なので、在宅ワークで会社が変わるようにしています。

最後に今後の目標、夢を教えてください。

IT業界は人手不足ですが、全国のひきこもり100万人のうち1%の方に素養があるとすれば1万人の人材が眠っていることになり、とてももったいない話です。「めっちゃコマ」でもいずればさらに多くの人に働いていただきたい。そのためには、ホームページ制作などの仕事をもっと受注する必要がある、お声がけいただければありがたいです。

また、ひきこもりの方の中にはとても能力の高い方がいらっしやいます。今後は優秀なエンジニアを集めて、ゲーム開発にも挑戦したいと考えています。ゲームがヒットすれば、年収2000万円、3000万円のひきこもりのスタープレイヤーが生まれるかもしれません。

(※1) 80代の親が50代のひきこもりの子を養っている状況から派生する困難や孤立、病気や介護などの問題を指す。  
(※2) コンピューターのソフトウェア開発に関するイベント。